

看護師国家試験のための日本語教育文法 必修問題編

岩田一成
庵 功雄

要旨

本稿では看護師国家試験必修問題を日本語能力試験の視点で分析した。その結果、必修問題に初級文法（旧日本語能力試験3級レベル）と言われるものは、ほとんど不要であることがわかった。必要なのは語彙の指導である。EPA 看護師候補者にとって看護師国家試験に合格することが彼らの日本滞在の唯一の条件であるが、依然合格率が4%という低い数値を示している。この現状を考えれば、現行で行われている様々な取り組みの中で、もう少し国家試験対策の効率化を図るべきだと考える。それは日本語能力試験基準で考えない文法圧縮・語彙集中型の教育を行うことである。

1. はじめに

学習者の多様性が指摘されて久しいが、2008年に始まったEPA看護師候補者（以後、EPA候補者と呼ぶ）に対する日本語教育は、その多様性を考える上で、様々な示唆が得られると考える。なぜなら彼らは大学に進学する必要はないが、看護師国家試験に合格するという比較的はっきりした目標を持って来日しており、これまでの留学生教育とは大きく異なるからである。それにも関わらず、彼らには入門段階（例えば、今年から始ま

った訪日前研修)でいわゆる初級教材を用いた従来型の日本語教育が行われ、その評価も、日本語能力試験を軸に行われているようである⁽¹⁾。また厚生労働省のホームページ⁽²⁾によれば、彼らの訪日前研修(2~3カ月)、訪日後研修(6カ月)は日本語能力試験の2級(N2)があれば免除されるとなっている。つまり8~9カ月にも及ぶ両研修の内容は、主に日本語能力試験という枠組みの中で行われていることを暗示している(少なくともそれで置き換え可能であると認識されている)。本稿は彼らへの日本語教育を考える上で重要となる看護師国家試験を分析し、教育への提案を行いたい。

1-1 初級文法に関する問題意識

初級文法(旧日本語能力試験3,4級レベル)に関する批判は、今でこそ比較的よく目にするようになってきたが、簡単に言うと「詰め込み過ぎである」という一言に尽きる。初級(3,4級レベル)では、助詞や活用などの日本語の基本的な文型に関わる要素をひと通り教え、中級(2級レベル)以降では、複合辞や機能語を教えることになっている。この流れを指摘した上で、小林(2009:28)は、「(3,4級レベルでは)構文や文型に関わる項目が網羅されることになる(同上)」と述べている。こういった現状に対してすでに庵(2009)では、一機能一形式に限定することによる初級の圧縮案が提案されている(Step1,2という文法項目を提案している)。

1-2 EPA 候補者への日本語教育

EPA 候補者にとって看護師国家試験に合格することは非常に重要である。理由はいくつかあるが、まず彼らは3年以内に合格しないと滞在資格が失効する(2008初年度派遣に限って延長が認められたが、次年度以降は不明)。次に、現状で彼らは助手扱いなので(母国で行っていた)医療行為ができず、給与も低い。しかし、支援体制はまだ手探りの状態であり、

岡部（2010）によると，EPA 候補者の日本語教育で「候補者が困ったこと」として上げられた回答の最上位は「国家試験対策」であった。

EPA 候補者の国家試験合格者数は，2009 年度が 3 人（1%）で 2010 年度は 16 人（4%）と非常に低い。この結果からも彼らへの国家試験対策を効果的に行うことが緊急の課題であると考ええる。このような問題意識から本稿では，看護師国家試験の必修問題に絞れば，どの程度の日本語知識で問題が解けるのかを明らかにすることを目的とする。

EPA 候補者は日本で生活するわけであるから，当然生活のための日本語能力は必要である。また病院での会話といった専門的な日本語能力も必要であろう。本稿はそれらの必要性を十分理解した上で，国家試験対策の効率化を図るために過去問題の分析を行う。

1-3 看護師国家試験必修問題

看護師国家試験は，必修問題・一般問題・状況設定問題からなる。その中で本稿は必修問題に焦点を当てたい。なぜなら，必修問題は 80% の得点を取れないと合格できず，実質上の二段階選抜問題として機能しているからであり，石川（2009）でも「必修問題の正答率を上げることが合格に繋がるといえる（46）」と指摘している。

(1) 97-am19 狭心症発作時の薬剤

狭心症発作時に使用するのはどれか。

1. アスピリン
2. テオフィリン
3. リン酸コデイン
4. ニトログリセリン

必修問題とは，(1) のように，短い文による質問が 50 問出題される⁽³⁾。本稿の分析対象は，94 回-100 回までの 249 問（不適格と判定された除外

問題が1問発表されているため)である。

2. 看護師国家試験必修問題の文法

2-1 2級レベル&1級レベル

本節では文法的観点から必修問題を分析する。対象となる問題すべてを目で見ながら、該当するものを拾い上げていった。その結果、旧日本語能力試験2級に該当する文法項目は次の通りである(1級レベルの項目は出現しなかった)。

(2) 2級文法出現数(1級文法ゼロ)

～による N	21	～とすると	1
～における N	13	～とは	1
～に対する N	4	～ようとしない	1
～として	4	～ような N	1
～によって	4	～に基づく N	1
～上で(目的)	2	～際に	1
～際の	2	～べき N	1
～に伴う N	1	～にかかわらず	1
Vうる	1	～限り	1

これを見ると、比較的頻度が高いものは全て複合格助詞で、「～による N, ～における N, ～に対する N, ～として, ～によって」だけでほぼ全体をカバーできる。したがって、本試験の対策ということだけで言えば、2級以上の文法を体系的に導入する必要は全くないと言える。

2-2 3級・4級レベル

上で見たのは中級レベルである2級に関するものであったが、初級レベルとされる3, 4級ではどうであろうか。以下、調査結果を述べる。ここ

での調査は、『MeCab』0.98と『UniDic』1.3.12による形態素解析を行い、用途に合わせて加工している。日本語教育の項目と合わせるために、最終的には目で読んで数えたものが多い。

まず、助詞に関しては次の通りであり、ほぼ全てのものが出現している。基本的な格助詞がしっかり習得できていないと試験問題は読めないということになる。

(3) 助詞の出現数

格助詞		終助詞	
の	480	か	248
に	143	準体助詞	
を	135	の	121
で	104	副助詞	
が	66	まで	5
と	54	や	4
から	25	くらい	3
へ	10	か	3
より	3	のみ	2
係り助詞			
は	289		
も	2		

次に活用形について述べる。この表において、マス形は動詞の連用形で止まっているものと「ます」が後続するものをカウントしている。「ない形」というのは、動詞に「ない・ず」が直接接続しているものを目で見ながらすべて拾い上げたものである。「なければならない」が接続しているものが5例あったが、それはナイ形には含まれていない。タ形、テ形などはそれぞれ助動詞の形態素を数えて得られた数字である。いわゆる活用については、バリエーションがほとんど出てこないことがわかるが、動詞の

連体修飾の形は、非常に高頻度で出現しており、この点は注意が必要である。

(4) 各活用の出現数

マス形 ⁽⁴⁾	17
辞書形	269 (連体形 157)
ナイ形	16
タ形	30 (連体形 22)
テ形	35
意向形	1
命令形	0
バ形 ⁽⁵⁾	0
せる・させる	15
れる・られる ⁽⁶⁾	31

上の表の中で、初級で重要な指導項目とされているテ形の全出現数を詳しく見たい。実質的にテ形で必要なのは、連用修飾（継起、並列など）のテ形と、「ている」だけであり、「である、ておく」などの初級教科書で必ず取り上げられる形式は試験のためには不要であることがわかる。

(5) テ形⁽⁷⁾の用法

テ形 (合計)	35	出現ゼロ てみる、てしまう、てくる、である、ておく
連用修飾	19	
ている	15	
ていく	1	

次に文末表現を見る。この表から、必要なのは「V やすい」と「なければならぬ」だけであり、「だろう」などの認識的モダリティは不要であり、ましてやこれらの形式相互の違いなどの説明は必要ではないことがわかる。

(6) 各文末表現の出現数

文末		出現ゼロ と思う, かもしれない, はずだ, だろう (でしょう), ようだ, そうだ, らしい
なければならない	5	
V やすい	13	
V にくい	1	
たい	2	

(7) 条件表現の出現数

条件	
と	1
ば	0
たら	0
なら	0

次に、現行の初級では相互の使い分けが問題とされている条件表現についてみてみよう。この表から、条件表現は不要であり、特に相互の置き換え可能性などは扱う必要がないことがわかる。

2-3 使役と受身

さて、(4)において比較的高頻度で出現したのは「せる・させる」と「れる・られる」である。ここでは両者の実際の使用例に即して考察する。「せる・させる」はすべて使役であり、全用例は次の通りである。なお、「着せる」は他動詞である。

(8) 使役

- 1 立位を最も安定させる足の位置はどれか
- 2 ストレッチャーによる移送で患者の頭部側を先行させるのはどれか
- 3 医療法に規定されている病院とは何人以上の患者を入院させる施設か
- 4 法的に診療所に入院させることのできる患者数の上限はどれか

- 5 右から脱がせ, 右から着せる
- 6 右から脱がせ, 左から着せる
- 7 左から脱がせ, 右から着せる
- 8 左から脱がせ, 左から着せる
- 9 右から脱がせ, 右から着る
- 10 右から脱がせ, 左から着る
- 11 左から脱がせ, 右から着る
- 12 左から脱がせ, 左から着る
- 13 初経を発来させるホルモンはどれか
- 14, 15 患者の体位は, 頸部を後屈させ下顎を拳上させる

これを見ると, 使役のバリエーションはきわめて限られていて「脱がせる」と「漢語+させる」だけであることがわかる。しかも, 意味的には, 初級教育の使役で扱われている「強制」や「許可・許容」の用法はなく, 「漢語+する」の他動詞形を作るための用法のみである。このことから, 使役に関しては, 「強制」や「許可・許容」の用法を練習する必要はなく, 「漢語+する」に関する自他の問題と, 「脱がせる」のような看護に必要な和語の使役形(この場合の用法も「強制」や「許可・許容」ではない)を練習すれば十分であると言える。

次に, 「れる・られる」31例の中で受身の全用例は29例で次の通りである。

(9) 受身

- 1 インスリン製剤に使用される単位はどれか
- 2 スタンダード・プリコーションで感染源とされるのはどれか
- 3 保健師助産師看護師法に定められている看護師の義務はどれか
- 4 患者の友人から病状を聞かれたので答えられないと説明した

(後者は可能)

- 5 患者の氏名が記載された看護サマリーを院外の研修で配布した
- 6 注入された薬物の作用が最も速く発現するのはどれか
- 7 男子には見られない
- 8 体温測定部位で外部環境に最も影響されにくいのはどれか
- 9 医療法に規定されている病院とは何人以上の患者を入院させる施設か
- 10 胃潰瘍の患者にみられる少量の吐血の特徴はどれか
- 11 ストレス下で分泌されるホルモンはどれか
- 12 低血糖によって分泌が促進されるのはどれか
- 13 脳死の判定基準に含まれないのはどれか
- 14 死の三徴候に含まれるのはどれか
- 15 250 mg/5 ml と表記された注射薬を 200 mg 与薬するのに必要な薬液量はどれか
- 16 正期産とされる妊娠週数はどれか
- 17 脂質 1 g が体内で代謝されたときに生じるエネルギー量はどれか
- 18 鉄欠乏性貧血でみられる症状はどれか
- 19 高額医療費は医療給付に含まれない
- 20 抑うつ状態でみられるのはどれか
- 21 脳血管疾患でみられる症状
- 22 脳血管疾患でみられる症状はどれか
- 23 Open-ended question (開かれた質問) はどれか
- 24 法令で書式が統一されている
- 25 呼吸音の聴診で粗い断続性副雑音が聴取されたときに考えられるのはどれか (後者は可能)
- 26 看護師の業務従事者届の届出の間隔として規定されているの

はどれか

- 27 脳死の判定基準に含まれるのはどれか
- 28 貧血 (anemia) の診断に用いられるのはどれか
- 29 保健師助産師看護師法で規定されている看護師の義務はどれか

上記の例を通して見られる特徴は、「ハムスターが猫に追いかけられている」のような、影響の与え手と受け手が対等な関係にある受身の例はないということである。ここで現れている受身は、形式上他動詞であっても動作の与え手が問題とならない（そのために受身が使われる）ものがほとんどである。特に、出現数の多い「見られる」「規定される」「含まれる」はそうである。さらに、「漢語+する」の中でも「する」（他動詞）の形では通常使われず、「される」（自動詞相当）の形でもっぱら使われるものもある（注入される、分泌される、代謝される）。これらは看護の専門用語に多いので、専門用語を練習する際に、自他の区別を合わせて学習すると効果的であろう。

3. Step1, 2 との関連

庵（2009, 2011）では地域日本語教育の実情に見合った初級という観点から、現行の学校型日本語教育で「初級」とされている項目（これがほぼ旧日本語能力試験 3, 4 級の文法項目に該当する）から大幅な絞り込みを行い、それをレベル別に Step1（初級前半）と Step2（初級後半）に分けることを提案している⁽⁸⁾。

Step1, 2 の特徴について詳しくは上掲論文に譲るが、ごく概略的に述べると、Step1 では助詞の用法が中心で、活用は現れず、全ての用法が産出レベルであるのに対し、Step2 では活用が現れ、理解レベルの用法も扱われるようになる（産出レベルと理解レベルの区別については庵（2006）

を参照).

Step1, 2の文法項目は以下の通りである.

(10) Step1の文法項目

名詞文 形容詞文 動詞文	<p>～は…です ～は…でした/かったです ～は…ですか</p> <p>～は…ます ～は…ました</p> <p>～は…じゃないです/…くないです</p> <p>～は…じゃなかったです/…くないかったです</p> <p>～は…ません/…ませんでした</p> <p>〈応答〉王さんは主婦ですか? はい, そうです いいえ, 違います</p> <p>〈応答〉昨日, 会社に行きましたか? はい (行きました) いいえ (行きませんでした)</p>
助詞	<p>～を ～の (所有格) ～の (準体助詞)</p> <p>～の (昨日の洗濯をしました) ～に (時間) ～に (行き先)</p> <p>～に (場所) ◎「住んでいます」はかたまりとして導入</p> <p>～で (場所) ～で (手段) ◎「歩いて」はかたまりとして導入</p> <p>～から/～まで (時間) ～が (目的語の「が」)</p> <p>～と (並列助詞) ～も</p>
疑問詞	<p>誰 何 何〇 (何時, 何年, 何歳, 何個) どこ いつ どれ・どっち どう</p>
指示詞	(絵や写真を指さしながら) これは何ですか? (これ/それ/あれ)
ボイス	バナナを食べたいです. (願望)
モダリティ	たぶん～です/ます
接続詞	A. それから, B. A. それで, B. A. そのとき, B.
その他	数字 曜日 弟がいます. (所有動詞「いる」)

(11) Step2 レベル文法項目

産出レベル	
形態論	～て (テ形) ～た (タ形) 辞書形 ～ない (ナイ形)
助詞	飛行機で東京から大阪まで帰ります。(から, まで: 場所)
形式名詞	こと もの
文型	～は…ことです. ～たり～たりします
ボイス	～ことができます ～く／～に／～ようになります
アスペクト	～ています (まだ) ～ていません ～たことがあります
モダリティ (認識)	～と思います
モダリティ (対人)	～てください・～ないでください (依頼) ～てもいいですか (許可求め) ～たいんですが (願望・許可求め)
複文・接続詞	～て (「図書館に行って, 本を借ります。」) ～てから (継起) ～とき (時間) ～たら (条件) ～けど (逆接・前置き) /～. しかし, ～ので (理由) /～. なので, ～ために /～ように /～ための (目的)
その他	～んです どうして…んですか? ～からです.
理解レベル	
モダリティ (対人)	～てもいいです (許可) ～てはいけません (禁止) ～ましょう (勧誘) ～たほうがいいです (当為) ～なさい (命令)
その他	昨日買った本 (はこれです.) (名詞修飾) 田中さんが来るか (どうか) (教えてください) (名詞化)

この2つの表と2節で分析した結果を合わせて考えると、本稿が対象としている看護師国家試験必修問題対策に限定すれば、文法は基本的に Step1, 2 レベルのもので十分であると言える。Step1, 2 に入っていない複合格助詞「～による N / ～によって, ～における N, ～に対する N, ～として」と文末表現「～やすい」を Step R (Reading) として追加すればよい。なお、Step1, 2 には使役と受身は含まれないが、これについて

の対策は2節で述べたとおりである。

4. 語彙のレベル

語彙については、2級を当面の目標にする（奥田 2009：50）という指摘がされているが、そこでは「2級以下の動詞語彙がのべ語数の80%以上を占めることから、先行研究で指摘されたことと同様に2級以下の語彙の重要性を国家試験においても確認できた」とされており、動詞のレベルを基準としている。本研究で対象となった必修問題7回分を分析すると、表にある動詞447例中149例は‘する’である。当然の結果として2級以下の語彙が増えることになる。

(12) 品詞別 のべ語数

品詞			
固有名詞	58	形容詞	75
普通名詞	3115	形状詞（ナ形容詞に相当）	48
名詞 計	3173	形容詞 計	123
		動詞	447

しかし、(1)の問題を見れば一目瞭然であるが、動詞がわかったところで問題は解けない。‘狭心症’‘発作’という名詞が理解できないことには、‘使用する’という動詞がわかったところでどうしようもないからである。また(12)を見るとわかるように、動詞よりも名詞のほうが出現数が多い。そこで名詞に注目してレベルを測定してみた。その際3173の名詞から、レベル判定に影響が出る英単語、アルファベット、数字を削除した異なり語数1218例をリーディングチュウ太⁽⁹⁾にかけてみた。

(13) 名詞（異なり語）のレベル

級外	1級	2級	3級	4級	その他
518	173	351	72	104	0
42.5%	14.2%	28.8%	5.9%	8.5%	0.0%

このように、1級と級外が半数以上を占めるため、2級語彙を勉強したところで役に立たないことがわかる。

5. まとめと提案

ここまで見てきたことをまとめると、必修問題だけを見る限りにおいて文法1、2級はもとより、3級すらほとんど必要がないということであった。それに対して語彙は1級、級外が過半数を占め、専門語彙を中心とした指導が必要であることがわかる。つまり、日本語能力試験の基準から離れた文法圧縮・語彙集中型の日本語教育が必要とされていることになる。もちろんすでにeラーニングやEPA候補者向けの国家試験対策教材の配布など、さまざまな取り組みが行われている。しかし、一方、訪日前研修、訪日後研修では従来型の初級テキストによる文法積み上げシラバスが用いられ、日本語能力試験の枠組みで行われていることは1節で確認した通りである。また、4節で見たように語彙についても2級レベルが主張されている。

昨年末3年目を迎えたEPAの現状は、結局候補者が何人帰国させられたかで評価されてしまうことが明らかになった。新聞に出たのは、何人帰国したかという数字であり⁽¹⁰⁾、何人が職場で歓迎されているかといった活躍はなかなかニュースにならない。それならば、この制度を続ける以上、国家試験対策の効率化がもっと議論されてもいいのではないだろうか⁽¹¹⁾。本論文がその議論の材料を提供するものになれば幸いである。

注

- (1) 国際交流基金のレポートにインドネシアの予備教育について書いてあり、彼らが N5 (旧日本語能力試験 4 級) を身につけたと報告されている。
→ http://www.jpf.go.jp/j/japanese/dispatch/assistant/report/2011_01.html
- (2) <http://www.mhlw.go.jp/bunya/koyou/other07/index.html>
- (3) 国家試験の構成は、99 回に関して必修 50 問、一般 160 問、状況設定 30 問となっている。ただし、94-98 回は必修問題が 30 問である。
- (4) マス形は 17 例であるが、実際にマスで文末が終わっているのはこの中の 3 例だけである。
- (5) 「なければならぬ」の「なければ」が 5 例カウントされているが、実質的にはバ形の出現頻度はゼロである。
- (6) この中で可能が 2 例あるが、他はすべて受身である。
- (7) 「として」「によって」という複合辞も 4 例ずつカウントされているが、テ形の用法ではないので、ここでは外している。
- (8) Step1, 2 にそれぞれ対応した日本語教材『にほんごこれだけ! 1, 2』(ココ出版) が公刊されている。
- (9) <http://language.tiu.ac.jp/>
- (10) 不合格者の中で延長が認められた 68 人中実際に延長したのは 27 人で該当者の 6 割が帰国を決めているということが取り上げられた [朝日新聞 2011, 「滞在延長 27 人どまり インドネシア人看護師候補」8 月 2 日朝刊].
- (11) 外国人看護師に日本の国家試験を受けさせることの是非、そこで暗記した語彙が本当に必要なのか、EPA の制度的問題点など、まだまだ議論すべき問題はたくさんあるが、本稿では現状が当面続くという仮定で、国家試験問題を検証している。

参考文献

- 庵功雄 (2006) 「教育文法の観点から見た日本語能力試験」土岐哲先生還暦記念
論文集編集委員会編『日本語の教育から研究へ』pp. 61-70, くろしお出版
- 庵功雄 (2009) 「地域日本語教育と日本語教育文法——「やさしい日本語」とい
う観点から——」『人文・自然研究』3, pp. 126-141, 一橋大学
- 庵功雄 (2011) 「日本語教育文法からみた「やさしい日本語」の構想」『語学教育
研究論叢』28, pp. 255-272, 大東文化大学

- 石川陽子（2009）「EPAによる外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れと日本語教育——国家試験に関連した動きと展望——外国人看護師に求められる日本語能力」『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp. 45-47
- 岡部大介（2010）「EPAに基づいて受け入れるインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者への日本語教育」『国際シンポジウム 東南アジアから日本へのケアワーカー移動をめぐる国際会議——政策担当者と研究者の対話——報告書』九州大学アジア総合政策センター, pp. 99-105
- 奥田尚甲（2009）「EPAによる外国人看護師・介護福祉士候補者の受け入れと日本語教育」『2009年度日本語教育学会秋季大会予稿集』 pp. 48-51
- 小林ミナ（2009）「文法研究と文法教育」小林ミナ・日比谷潤子編『日本語教育の過去・現在・未来 第5巻文法』凡人社, pp. 17-38

付記

本稿は形態素解析など技術的な指導を森篤嗣氏（帝塚山大学）から受けて分析を行っている。また、データの形態素解析には、京都大学情報学研究科——日本電信電話株式会社コミュニケーション科学基礎研究所共同研究ユニットプロジェクトによる『MeCab』0.98と、国立国語研究所による『UniDic』1.3.12を使用させて頂いた。関係各位に感謝申し上げたい。

また、本稿は日本学術振興会科学研究費補助金による基盤研究（A）「やさしい日本語を用いたユニバーサルコミュニケーション社会実現のための総合的研究」（課題番号：22242013、研究代表者：庵功雄）の成果の一部である。